

## 令和4年度 指定管理施設運営状況中間評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市海と森ふれあい体験館	
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人シェルフオレスト川内
	代表者	理事長 内田 征吾
	所在地	むつ市川内町川内477
指定期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	地域の海・山等の豊かな自然を活用した、地域住民の生涯学習の場及び地域を担っていく子供たちの総合学習の拠点であり、地域の伝統文化の情報発信に寄与することを目的とした施設である。設置目的を踏まえ地域の活性化を図る為、利便性を向上させる運営に取り組む。	

### 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	6,075	3,201	▲2,874
うち利用料金額	50	13	▲37
うち指定管理料	6,025	3,013	▲3,012
支出合計 (B)	6,075	2,259	▲3,816
うち人件費	300	0	▲300
収支差 (A-B)	0	942	942
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	収入=むつ市コロナ感染予防「あんしん店」補助金10万円		

### 3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	指定事業	1,850	2,180	330
	自主事業	1,750	1,279	▲471
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無) 1Fホールにある海や川の生き物展示が面白かったというご意見を多くいただいているため、水槽の数を増やすとともに、水槽内の生き物を適宜入れ替え、利用者が見やすいようなPOPの作成などを行っている。				

### 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
むつ・小川原地域産業振興プロジェクト 支援助成事業	18	551	449
海と日本PROJECT助成事業	1,177	860	921
地域の思いをつなぐ若者育成事業	29	161	56
かわうち・まりん・びーち清掃事業	55	0	0

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A (優良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B (適正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	C	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	C	C
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目についての改善策を記載すること。

- |  |
|--|
| <p>(1) ③専門知識を高める為研修を受けたスタッフが、来館者に対して展示品や海の生物について解説を行っている。</p> <p>(2) ②施設の広報誌「しえるメール」を作成し、広報むつに同封配布することによって、地域住民に施設への理解を深めてもらい体験館の利用促進に努めた。</p> <p>(3) ②学校以外への施設の貸し出しが少ないため、趣味等の講座などでの施設利用を促進する。</p> <p>(5) ①イベントや施設の貸切の情報などを広報誌やWebサイトで都度提供する。</p> |
|--|

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

<p>コロナ禍においても、ワクチンや検査の充実により、自主事業の実施ができています。自主事業を開催するにあたり、事前に研修を受けており、専門的な知識を深めたうえで実施していることは評価に値する。また、自主事業において、むつホタテフェスティバルを開催するなど、施設利用の枠</p>
---

にとどまらず、地域にあった祭りの復活などこれからも継続して実施していける事業を開催しており、それが潜在的な利用者発掘につながる活動となっていると考える。それが収入増につながる活動となることは今後の課題である。しかし、施設を見てもらいそこから施設を借りるなどの活動につながっていくものとする。

施設利用状況の提供に関しては、SNS の活用など下地はすでにできていることから、改善はすぐにできると考える。

スタッフの増員により、事業を実施できる環境は整いつつある。しかし、事業の展開とスタッフの業務量が釣り合っていない部分も見受けられるため、業務量を把握し、持続可能な事業展開をお願いしたい。

施設の設備や機器に修繕が見込まれることから、施設運営に支障のないよう適切に修繕計画を策定していく必要がある。今後とも連携をとって施設の管理を進めていきたい。